

科目（講座名）		現代文演習	2 単位	必修選択
教科書	改訂 2 版 出口のレベル別問題集④（東進ブックス） 改訂版 出口のレベル別問題集③（東進ブックス）			

学習の目標

- ・ 1. 2 年次に学習した現代文の基礎を踏まえ、より高度な文章を読み、論理的な読解力を身に着けると同時に、進学に対応できる学力を身につける。
- ・ 大学入試レベルの実践問題に取り組み、応用力を養成する。

授業内容

- ・ 演習→自己採点のサイクルの中で生徒自身の力で読解していく力を身につけていく。
- ・ 問題形式を分析することで、大学入試で出題される様々な問題形式への対応力を身につけていく。
- ・ 2 学期は大学の過去問題を扱い、大学受験に向けて入試問題に慣れるよう指導していく。

学習方法

- ・ 問題演習の後自己採点し、自己評価シートに自身の課題を整理させる。
- ・ 間違った問題を見直すために、問題を形式ごとにまとめさせる。
- ・ 授業の内容は必ず復習し、要約をするなどして理解を深める。特に知識などの基礎的な部分を確かにすることに加え、授業で扱わなかった点についても理解する努力をすること。

評価の観点

関心・意欲・態度	大学入試レベルの文章を進んで読み取って理解しようとするとともに、問題の解法のプロセスなどについて伝え合おうとしている。
話す・聞く能力	大学入試レベルの問題を解くうえで必要なプロセスなどについて説明することができる。
書く能力	文章の内容に即して内容を説明・要約する文を記述することができる。
読む能力	自分で積極的に語彙を調べ、文章の内容を構成や展開に即して捉えることができる。
知識・理解	大学入試レベルの文章を読み、理解することができる。また、大学入試レベルの文章を読むのに十分な言葉の知識を身につけている。

評価方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
----	---	------	----	------	---------

1	4	1 3	評論 小説	※問題演習	・大学入試レベルの文章題を解き、自身で解答の確認をする。問題形式ごとにまとめ、解法の確認を行う。
	5				
	6				
	7	1 3	評論 小説	※問題演習	
2	9	1 4	評論 小説	※問題演習	・大学入試レベルの文章題を解き、自身で解答の確認をする。問題形式ごとにまとめ、解法の確認を行う。
	10				
	11	1 4	入試問題	※問題演習	
	12				入試レベルの問題演習を行い、解法パターンを定着させ、読解力・知識等の確認を行う。
3	1	2	入試問題	※問題演習	・入試レベルの問題演習を行い、1年間の学習内容の総仕上げとする。

科目（講座名）		古 典（古典ＢⅡ）	2 単位	必修選択
教科書	精選古典Ｂ 古文編（東京書籍）		担当教諭	
副教材	体系古典文法（数研出版）よむナビ古典３（いっずな書店） マーク完答（尚文出版） 古典速読トレーニング 基礎（数研出版） みるみる覚える古文単語 300+30（桐原書店） はじめの一步古文読解問題集（駿台文庫） 新国語便覧（第一学習社）			

学習の目標

今まで学習した古典の基礎を踏まえ、より質の高い古文を読み、文学としてのおもしろさを味わい、その時代の生活や思想への認識を深めると同時に、進学に対応できる学力を身につける。主に古文の大学入試問題演習に取り組み、受験を意識した総合力を養成する。

授業内容

古文においては、文法、語彙の基礎学力を確かなものとし、生徒自身の力で読解していく力を身につける。一学期は源氏物語の読解を中心とし、基本的な読解力を身につけると共に、古典文学の時代背景や生活などの基本的な教養を身につける。二学期は平安朝の日記、歌論を読む。その後は、センター試験や私大の大学入試問題演習に取り組む。

単元終了時には随時入試問題集に取り組む。

学習方法

- ・ 予習で、文章をノートに写し、語句の意味、文法事項を必ず調べておく。また、自分で現代語訳を試み、内容を把握してくるようにする。
- ・ 授業では音読を重視し、ペアワークでの音読を行い、体にしみこませる。ポイントを必ずノートに整理し、正確な内容を理解できるようにする。源氏物語での有名な場面ではグループ学習を取り入れ、登場人物の吹き出しに心の声をうめ、発表し合う等、より理解が深まるよう工夫をする。
- ・ 授業の内容は必ず復習し、現代語訳を整理し、理解を深める。特に文法事項などの基礎的な部分を確かにする努力をすること。

評価の観点

関心・意欲・態度	古典や日本文化、中国文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、その内容について伝え合おうとしている。
話す・聞く能力	作品に対する自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き取れる。
書く能力	古典を読んで関心を持ったことなどについて調べ、文章にまとめることができる。
読む能力	自分で積極的に語彙を調べ、文法事項を理解した上で、文章や作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえることができる。
知識・理解	古典に表れた思想や生活、歴史的背景、文学表現上の特色を理解することができる。また、古典を読むのに十分な言葉の知識を身につけている。

評価方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	1 3	物語	源氏物語 車争ひ 須磨の秋	・心情表現の機微を理解する、より高度な読解を行う。あわせて、敬語表現、助動詞などの文法力、語彙力を高め、入試に対応できる読解力を身につける。 ・源氏物語の主題に触れ、文学としての源氏物語の本質を味わう。 ・文法の基礎知識を踏まえて、的確に人物関係や内容を把握する力を身につける。	
	5			(中間考査) 母と子の別れ 夜深き鶏の声 萩の上露		
	6	1 3		(期末考査) 大学入試問題演習		
	7					
2	9	1 4	歌論	『仮名序』	・時代背景、和歌の歴史、歌論についての基礎知識を知る。 ・文法の基礎知識を踏まえて、的確に人物関係や内容を把握する力を身につける。 ・日記文学において、心情表現の理解、和歌の読解の力を深める。文法の確認をしながら、あわせて語彙力を高める。	
	10			俊頼髓脳 (中間考査)		
	11	1 4		日記		和泉式部日記 大学入試問題演習 (期末考査) 大学入試問題演習
	12					
3	1	2		大学入試問題演習	大学入試の問題演習を行い、3年間の古典学習の総仕上げをする。	
	2					
	3					

科目（講座名）		古 典（古典BⅣ）	4 単位	必修選択
教科書	精選古典 B 古文編・漢文編（東京書籍）			
副教材	八訂版 体系古典文法（数研出版） 改訂版 よむナビ古典 3（数研出版） みるみる覚える古文単語 300+30(いっずな書店) 漢文必携・チェックノート(桐原書店) 古典速読トレーニング基礎（数研出版） はじめの一步 古文読解問題集 改訂版（駿台文庫） マーク式基礎問題集漢文（河合塾）			

学習の目標

- ・ 1. 2 年次に学習した古典の基礎を踏まえ、より高度な古文と漢文を読み、文学としてのおもしろさを味わい、その時代の生活や思想への認識を深めると同時に、進学に対応できる学力を身につける。
- ・ 大学入試レベルの実践問題に取り組み、応用力を養成する。

授業内容

- ・ 古文においては、文法、語彙の基礎学力を確かなものとし、生徒自身の力で読解していく力を身につけていく。一学期は「源氏物語」を読み、基本的な読解力を身につけると共に、古典文学の時代背景や生活などを学習する。二学期は評論の読解に取り組む。また、適宜問題集を取り扱い、大学受験に向けて入試問題に慣れるよう指導していく。
- ・ 漢文においては、基本的な句法と文の構成を理解するとともに、白文の文章を読んで解釈する力を身につける。
- ・ 週 4 時間の授業の中で、発展的な内容を演習形式で学習する。また、本文の解釈や背景について調べ、発表しあう。

学習方法

- ・ 授業で発表できるように、予習として、本文をノートに写し、語句の意味、文法事項を必ず調べておく。また、自分で現代語訳を試み、内容を把握してくるようにする。
- ・ 授業での、ポイントを必ずノートに整理し、正確な内容を理解できるようにする。
- ・ 授業の内容は必ず復習し、現代語訳を整理し、理解を深める。特に文法事項などの基礎的な部分を確かにすることに加え、授業で扱わなかった点についても理解する努力をすること。

評価の観点

関心・意欲・態度	古典や日本文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、その内容について伝え合おうとしている。
話す・聞く能力	作品に対する自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて発表したり、的確に聞き取れる。
書く能力	古典を読んで関心を持ったことなどについて調べ、文章にまとめることができる。
読む能力	自分で積極的に語彙を調べ、文法事項を理解した上で、文章や作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえることができる。
知識・理解	古典に表れた思想や生活、歴史的背景、文学表現上の特色を理解することができる。また、古典を読むのに十分な言葉の知識を身につけている。

評価方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	2 6	物語	源氏物語 「車争ひ」 「須磨の秋」	・文法の基礎知識を踏まえて、的確に人物関係や内容を把握する力を身につける。時代背景、文学史についての基礎知識を知る。 ・漢文の構造を理解し、初めての文章でも内容理解が可能な読み方を学習する。中国の歴史に触れる。
	5			「漁父之辞」 ※問題演習 (中間考査)	
	6			源氏物語 「母と子の別れ」 「夜深き鶏の声」 「萩の上露」	
	7	2 6		三国志の世界 赤壁之戦 ※問題演習 (期末考査)	・心情表現の理解、和歌の読解の力を深める。あわせて語彙力を高める。 ・漢文を訓読し、中国古代思想への理解を深め、味わう。 期末考査後も問題演習に取り組む。
2	9	2 8	和歌	古今和歌集仮名序	・和歌の修辞を理解する、より高度な読解を行う。あわせて、敬語表現、助動詞などの文法力、語彙力を高め、入試に対応できる読解力を身につける。 ・長文の史伝を読み、話としてのおもしろさを味わうと同時に、漢文の読解力をより高いものに鍛える。
	10		評論	俊頼髓脳 「鷹狩りの歌」 ※問題演習 (中間考査)	
	11	2 8	日記	和泉式部日記 「夢よりも儂き世の中を」	
	12		小説	桃花源記 ※問題演習 (期末考査)	・これまでとはタイプの異なる俳文、評論文や漢文の小説というものの読み方に馴れ、当時の人のものの見方に触れる。 期末考査後も問題演習に取り組む。
3	1	4		※問題演習	・入試レベルの問題演習を行い、1年間の学習内容の総仕上げとする。

科目（講座名）		世界史 B	4 単位	必修選択
教科書	「世界史 B」（山川出版社）		担当教諭	
副教材	「アカデミア世界史」（浜島書店）			

学習の目標

大学入試に対応出来る基礎学力及び教養を身に付け、難関大学に合格する力を養成する。

授業内容

講義・演習を中心に行う。可能な限り I C T などの視聴覚教材を利用する。また、講習・確認テストも適宜実施する。

学習方法

講義を受講し、復習プリントなどを活用し自学自習を行う。
 演習問題に取り組み、知識の定着を図る。
 夏・冬の講習を活用する。

評価の観点

関心・意欲・態度	予習・復習をおこなっている。 積極的な授業参加が見られる。 自学自習の成果が見受けられる。
思考・判断	歴史上の地名・人物について思考をめぐらし、それらがどのように現代社会形成の要素となったかを理解することができる。 世界史的な事象に対し原因と結果を把握し、事象の内容について理解することができる。
技能・表現	板書をプリントに記入している。 世界史の専門用語を正しく使用できる。
知識・理解	世界史を形成した事件や人物について十分な知識を持ち、理解している。 各時代において、多角的・多面的な視野を持ち、出来事を理解している。

評価方法

上記の観点について、定期考査と確認テストなど年間の成績を総合的に判断し評価する。

地理歴史

年間 計画 学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	1 2	ヨーロッパ世界の形成と発展	西ヨーロッパ中世世界の変容 西ヨーロッパ中世文化 *自宅学習期間は、調べ学習を中心とする	西ローマ帝国滅亡後の、西ヨーロッパ世界の在り方について、イスラーム勢力に留意しつつ、理解させる。
	5	2 4	近世ヨーロッパ世界の形成・展開	西ヨーロッパ世界の拡大 ルネサンス	大航海時代を通じ世界の一体化が進展し、また宗教改革にともない対抗宗教改革として海外への進出が行われたことを理解させる。加えて、主権国家体制が確立され、重商主義政策にともないヨーロッパによる植民地戦争が始まったことを理解させる。
	6			宗教改革 ヨーロッパ主権国家体制の形成 重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出 17～18 世紀ヨーロッパの文化と社会	
	7		近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン	産業革命により、資本主義社会が確立され、またアメリカ独立革命及びフランス革命により近代政治の基礎原理が確立されたことを理解させる。
2	9	2 4	欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制の成立 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 南北アメリカの発展	ウィーン体制の成立とナショナリズムや自由主義的改革について触れる。一方ヨーロッパの干渉を排除したアメリカでは、南北戦争後太平洋岸まで開拓が進み、急速な成長を果たしたことを理解させる。
	10	1 2	アジア諸地域の動揺	オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容	オスマン帝国の弱体化とそれに伴うヨーロッパ勢力の干渉・植民地化が進展したことを理解させる。
	11	4	帝国主義とアジアの民族運動	帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動	第二次産業革命の結果、植民地や勢力圏争いが激化し、第一次世界大戦を招き、そしてその後築かれた国際秩序も第二次世界大戦を防げなかったことを理解させる。 第二次世界大戦後の世界が米ソを中心として進むが、第三世界の台頭にも留意させる。
	12	6	二つの世界大戦 問題演習	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ地域の民族運動 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦	
3	1	4			

令和2年度第3学年 年間授業計画

科目（講座名）	日本史B	4単位	選択必修
教科書	詳説日本史B（山川出版社）		
副教材	最新日本史図表（第一学習社） 入試に出る日本史B 一問一答（Z会）		

学習の目標

基本的な知識の定着と歴史的思考力の伸長。
日本史を世界史的視野に立って総合的に理解させ、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
理解内容を表現する力の育成。

授業内容

「第7章 幕藩体制の展開」から「第13章 激動する世界と日本」を扱う。

学習方法

講義形式。必要に応じて、図表や補助資料・プリントを使う。

評価の観点

関心・意欲・態度	各時代の政治体制や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究していること。
思考・判断	国際社会や国内の政治、経済の動向、近隣諸国との関係と関連づけて、多面的・多角的に考察するとともに国際情勢の変化を踏まえ公正に判断している。
技能・表現	政治・文化などの動向に関する諸資料の活用を通して、歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。
知識・理解	政治・経済・文化等についての基本的な事柄を、国際情勢と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。

評価方法

定期考査を基本に、ノート・プリント等の提出物により、平常点を加味する。そしてこれらをもとに年間の成績を総合的に判断し評価を行う。

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	10	第7章 幕政の安定 経済の発展	身分制度の確立 江戸初期の文化 幕府政治の展開	- 幕藩体制の特色を、政治的・社会的な背景と関連させて理解させる。 - 社会構造の変化による幕藩体制動揺の過程と、近代を準備する新しい要素の形成について理解させる。 - 開国によって国際社会に組み込まれる中で、尊攘運動や倒幕運動を経て明治維新に至る過程について、経済や社会と関わらせて捉えさせ、その意義を考察させる。 - 国会開設の運動など、国民の間に政治的関心が高まるなかで立憲体制が成立し、近代国家の基盤が形成された過程を考察させる。 - 日清・日露戦争を清国の朝鮮政策やロシアの極東政策と日本の大陸政策など、世界史的視野から考察させる。
	5	16	第8章 幕政の改革 幕府の衰退	経済と産業の発展 元禄文化 田沼時代と経済発展 寛政の改革と海防問題	
	6	16	第9章 開国と幕末の動乱 明治維新と富国強兵	開国 開国とその影響 公武合体と尊攘運動 討幕運動の展開 幕府の滅亡	
	7	10	立憲国家の成立と日清戦争	自由民権運動 憲法の制定 初期議会 条約改正 日清戦争と三国干渉 立憲政友会の成立 日露戦争 桂園時代 社会運動の発生	
			日露戦争と国際関係 近代産業の発展 近代文化の発達		
			第10章 第一次世界大戦と日本	大正政変 第一次世界大戦 政党内閣の成立	
2	9	16	ワシントン体制 市民生活の変容と大衆文化	パリ講和会議 ワシントン会議 社会運動の勃興と普選運動 大正デモクラシー 大衆文化の誕生	- 第一次大戦とその前後の国際社会の動向に留意し、日本の対外政策や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察させる。 - 日本が経済的困難と中国権益確保のために大陸への積極的な膨張政策をとったことを理解させる。 - 日本が日独伊三国同盟を結んでアジアにおけるヨーロッパの植民地を取り込もうとする南進路線をとり、米英との戦争に踏み切ったことを理解させる。 - 高度経済成長とそれに伴う新しい外交関係、国民生活の変化と経済発展に伴って表面化した社会問題について考察させる。
	10	16	恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦	戦後恐慌～昭和恐慌 満州事変 政党内閣の崩壊と国際連盟脱退 日中戦争 新体制と三国同盟 開戦～敗戦 戦後秩序の形成	
	11	16	第11章 占領と改革 冷戦の開始と講和	占領政策と民主化政策 日本国憲法 冷戦体制の形成と東アジア	
	12	8	第12章 55年体制 経済復興から高度成長へ	冷戦構造の世界 55年体制の成立	
3	1	12	第13章 経済大国への道 冷戦の終結と日本社会の動揺	サンフランシスコ講和条約と日米安保体制 ドル危機と石油危機 バブル経済と市民生活	冷戦の終結と激動する国際情勢、国際的経済秩序の転換の中での日本の政治・経済のあり方を考えさせる。
	2		演習	大学入試問題	

科目（講座名）		数学Ⅰ（演習・標準）	2 単位	必修選択
教科書	数学Ⅰ Standard（東京書籍） 数学 A Standard（東京書籍）			
副教材	大学入試 短期集中ゼミ 基礎からの数学Ⅰ + A Express（実教出版） WIDE 数学Ⅰ + A（東京書籍）			

学習の目標

数学Ⅰの全範囲および、数学Aの場合の数、確率を学習する。数と式、命題、方程式と不等式、2次関数、三角比、データの分析（以上数学Ⅰ）、場合の数、確率（以上数学A）について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすと共に、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

授業内容

(1) 数と式	(ア) 式の展開 (イ) 因数分解 (ウ) 平方根を含む計算 (エ) 式の値 (オ) 3元連立方程式 (カ) 絶対値を含む計算
(2) 2次関数	(ア) 2次関数とそのグラフ (イ) 最大・最小 (ウ) 2次関数と方程式・不等式
(3) 図形と計量	(ア) 三角比 (イ) 正弦定理・余弦定理 (ウ) 図形の計量
(4) 集合と論証	(ア) 集合 (イ) 命題と論証
(5) データの分析	(ア) 代表値・箱ひげ図 (イ) 分散と相関
(6) 場合の数と確率	(ア) 順列・組合せ (イ) 確率とその応用

学習方法

- ・1年次に学習した内容を復習しながら、演習問題を解き、基礎事項のチェックと把握、及び解法のパターンの習得をはかる。
- ・各章ごとにまとめの問題に取り組み、内容がしっかり把握できているかどうかを確認する。

評価の観点

関心・意欲・態度	数学の学習に関心をもち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用できる。
数学的な見方・考え方	数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身につけている。
表現・処理	物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身につけている。
知識・理解	数学の概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身につけている。

評価方法

1. 授業内に実施するテスト
2. 課題の提出状況
3. 出席状況、学習態度
4. 課題テストや小テストなどをもとに、年間の成績を総合的に判断して評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	20	数と式 2次関数	式の展開 乗法公式と因数分解 平方根の計算 式の値 3元連立方程式 絶対値を含む計算	整式の展開および因数分解について復習し、やや複雑な式の展開・因数分解を学習する。実数の分類について理解し、無理数の計算について学習する。基本的な整数問題の解法を学習する。 2次関数のグラフについて復習し、関数の値の変化、最大値、最小値の求め方を復習し、入試問題を含む演習を行う。
	5				
	6				
	7				
2	9	34	2次関数	グラフと方程式・不等式	2次関数のグラフと2次方程式の解の関係 および、2次関数のグラフを用いて2次不等式が解けることを復習し、入試問題を含む演習問題の解法の手順を学習する。
	10		図形と計量	三角比 正弦定理・余弦定理 図形の計量	三角比に関する公式について復習し、図形における線分の長さ、角の大きさ、面積、体積の計算について学習する。
	11		集合と論証	集合 命題と論証	集合について復習し、条件と命題、必要条件と十分条件などに関する入試問題を含む演習を行う。
	12		データの分析	代表値・箱ひげ図 分散と相関	代表値、四分位数、分散、標準偏差および、相関係数など学習する。
			順列・組合せ	順列、組合せ 確率 独立な試行の確率 条件つき確率	順列、組合せに関する公式を復習し、入試問題を含む演習を行う。確率について復習し、入試問題を含む演習を行う。
3	1	16	融合問題を含めた演習形	総合演習	過去の入試問題を中心に解法の演習を行う。

科目（講座名）		数学Ⅱ（演習）	2 単位	必修選択
教科書	数学Ⅱ Standard（東京書籍）			
副教材	WIDE 数学Ⅱ（東京書籍） 2021 大学入試 短期集中ゼミ 基礎からの数学Ⅱ＋B Express（実教出版）			

学習の目標

数学Ⅱの全範囲を学習する。式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすと共に、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

授業内容

- （１）式と証明
- （２）複素数と方程式
- （３）図形と方程式
- （４）三角関数
- （５）指数関数と対数関数
- （６）微分法と積分法

学習方法

- ・ 2年次に学習した内容を復習しながら、演習問題を解いてゆき、基礎事項のチェックと把握、及び解法のパターンの習得をはかる。
- ・ 各章ごとにまとめの問題に取り組み、内容がしっかり把握できているかどうかを確認する。

評価の観点

関心・意欲・態度	数学の学習に関心をもち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
数学的な見方・考え方	数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身につけることができたか。
表現・処理	物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身につけることができたか。
知識・理解	数学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価方法

1. 年4回の定期考査、課題テスト
 2. ノート・レポートなどの提出物
 3. 出席状況、学習態度
- など年間の成績を総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	20	式と証明	多項式の除法 恒等式 等式の証明 不等式の証明	式を計算した結果は、できるだけ簡単な形、あるいはその結果を応用するのに便利な形に変形、整理するよう指導する。
	5				
	6				
	7		複素数と方程式	複素数の計算 複素数と2次方程式 解と係数の関係 剰余の定理・因数定理 高次方程式	解の公式、判別式、解と係数の関係から、2次方程式の解に関する諸問題の取り扱いに習熟させる。
			図形と方程式	直線の方程式 円の方程式 円と直線 2つの円 軌跡 領域と最大・最小	図形に関する指導については、指導すべき事項を明確にとらえ、重点的に、それらを十分に理解させるようにする。
			三角関数	三角関数 加法定理 三角関数の合成	三角関数に関する諸公式は、重要なものが多いが、多岐にわたり、そのすべてを記憶させるのは無理な面がある。三角関数の定義からの導き方、作り方を指導し、無駄な暗記に陥らないように留意する。
			指数関数・対数関数	指数・対数の計算 指数・対数の応用 指数・対数の方程式・不等式 指数・対数関数の最大値・最小値	拡張された指数について、指数法則の成立を厳密に示すのは大変であるので具体例で確認させる。
			微分法	平均変化率と微分係数 曲線の接線 極大・極小 最大・最小 3次関数のグラフと方程式	微分係数、導関数の計算については、極限の概念が必要になるが、ここでは、直感的に取り扱う。 関数の増減、極値から、関数の最大値、最小値を求めたり、方程式・不等式の問題への応用を取り扱う。
			積分法	定積分の計算 定積分で表された関数 面積	定積分の基本的な性質を理解させ、それに基づく計算法に習熟させる。 定積分の応用として、平面図形の面積を求める方法を把握させる。

2	9 10 11 12	28	融合問題を含めた演習形	総合演習	過去の入試問題を中心に解法の演習を行う。
3	1	1	融合問題を含めた演習形	総合演習	過去の入試問題を中心に解法の演習を行う。

科目（講座名）		数学Ⅲ	6 単位	必修選択
教科書	新編 数学Ⅲ（数研出版）			
副教材	3 TRIAL 数学Ⅲ（数研出版）			

学習の目標

高等学校における数学教育のひとつの完結段階である数学Ⅲにおいては、数学的な見方や考え方の基盤が確立できるように、基礎概念の明確な理解と基本的な技能の習熟を図る。

また、それらの知識や技能を活用する能力を伸ばすとともに、高度な数学への関心を高め、思考・意識の広がりを認識できるようにすることを目標とする。難関大学に通用する力をつける。

授業内容

高校 2 年生までに学習してきた内容を継承し、（１）関数、（２）極限、（３）微分法、（４）微分法の応用、（５）積分法とその応用、（６）複素数平面、（７）式と曲線について学習する。

学習方法

予習→授業→復習の徹底、予習による疑問点のチェックは、授業の取り組みに対する意識を高めるとともに効果的な学習方法である。復習は基本的な技能の習熟には必須である。復習での問題演習により、基礎概念の明確な理解が深まるとともに、更なる思考の発展に繋がる。

予習、授業、復習の学習サイクルの徹底に努める。

評価の観点

関心・意欲・態度	平面上の曲線と複素数平面、関数に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
数学的な見方・考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付けている。
表現・処理	平面上の曲線と複素数平面、関数において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。
知識・理解	平面上の曲線と複素数平面、関数における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

評価方法

定期考査、出席状況、小テスト、課題提出等により、年間の成績を総合的に判断して評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4 5 6		第1章 複素数平面 第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 第3章 関数 第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 第5章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質 7. 曲線の媒介変数表示と極座標 8. 極座標と極方程式 9. コンピュータの利用 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 4. 関数の極限(1) 5. 関数の極限(2) 6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数 4. 第 n 次導関数 5. 曲線の方程式と導関数	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 簡単な分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解する。合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求める。 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求める。合成関数の導関数について理解し、合成関数の導関数を求める。三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を求める。
	7 8		第6章 微分法の応用	1. 接線の方程式 2. 平均値の定理	導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方

			第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用 第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 5. 方程式，不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分 4. 定積分とその基本性質 5. 置換積分法と部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題 7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ	程式を求めたり，いろいろな関数の値の増減，極大・極小，グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりする。また，それらを事象の考察に活用する。 積分法についての理解を深めるとともに，その有用性を認識し，事象の考察に活用できるようにする。
2	9 10 11 12		数学Ⅲ総合問題	大学入試演習問題	実際の総合問題を演習し入試問題を解く力を養う。
3	1 2 3		数学Ⅲ総合問題	大学入試演習問題	実際の総合問題を演習し入試問題を解く力を養う。

科目（講座名）		政治・経済	2 単位	必修選択
教科書	高校政治・経済（実教出版）			
副教材	完全 MASTER センター試験 政経問題集 （清水書院）			

学習の目標

民主主義の本質を理解し、広い視野から現代の政治・経済・国際関係について客観的に理解する力を身につけることを目標とする。

授業内容

政治・経済・国際関係などに関する諸課題についての学習をとおして、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

学習方法

板書を中心とした一斉授業形式をとり、必要に応じて演習形式を併用する。

評価の観点

関心・意欲・態度	現代の政治・経済・国際関係について関心を高め、それぞれの課題を意欲的に追究するとともに、客観的に考えようとする態度を身につけている。
思考・判断	現代の政治・経済・国際関係に関わる事象から課題を見いだし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断している。
技能・表現	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。
知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。

評価方法

前記の観点について、年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4 5 6 7	2 6	現代の経済	経済社会の変容 現代経済のしくみ 現代経済と福祉の向上 世界経済と日本	経済活動の特徴、資本主義経済の発達と変容、資本主義経済の特徴について学習し、経済活動の意義について考える。 経済主体の役割、市場のしくみ、国民所得、経済成長、金融のしくみ、財政の役割を学習し、経済活動がどのように調整されているか考える。 日本経済の発達のながれ、中小企業問題、日本の農業、国民の生活、環境・公害問題、労働問題、社会保障の役割について学習し、さまざまな課題にどのように取り組むべきか考える。 商品・資本の国際取引、国際収支、資本主義経済の展開、南北問題を学習し、世界経済と日本経済のかかわりについて考える。
2	9 10 11 12	2 8	現代の政治	民主政治の基本原則 日本国憲法の基本的性格 日本の政治機構 現代日本の政治 現代の国際政治	基本的人権の意義、法の支配、民主政治の発達と人権の発達、世界の政治体制、20 世紀の教訓を学習し、民主政治の課題は何か考える。 日本国憲法の成立、日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。 日本の国会、内閣、裁判所、地方自治のしくみを学習し、民主主義がどのように実現されているか理解し、他の国の制度とくらべて今後の課題は何か考える。 国際政治と国際法の意義、国際連合の成立と活動、東西冷戦終結後の国際政治、核軍縮や管理について学習し、国際政治と日本の関係について考える。
3	1 2 3	1 6	現代社会の諸課題	人種・民族問題 核兵器と軍縮 国際経済格差の是正と国際協力	商品・資本の国際取引、国際収支、資本主義経済の展開、南北問題を学習し、世界経済と日本経済のかかわりについて考える。 軍事力や力の政治によってのみでは、国際問題の最終的解決は不可能であり、国連をはじめとする多国間での協議の必要性が高まっていることを理解させる。